

平成28年熊本地震 日本赤十字社の活動 Kumamoto Earthquake Report



H28年4月17日 AM8:35 ミーティングを終え出動する日赤救護員

たとえ大きな困難が行く手をはばんでも、
何度でも立ち上がる底力が、人間にはある。

人間は決してひとりじゃない。

手を取り合って生きているからこそ強くなれるのだと、
私たちは信じています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

熊本地震災害の概要



被害状況

死者 88人

重軽傷者 2,244人

建物損壊 163,819棟

(熊本県災害対策本部調べ8月15日発表)

避難者 約180,000人(ピーク時)

熊本地震の特徴

今回の熊本地震では、4月14、16日の2度にわたって最大震度7の大きな地震があり、その後に続く余震による不安から、車中泊やテント泊をされる方が多くいらっしゃいました。また、避難生活の長期化により、エコノミークラス症候群などで体調を崩す方や、先の不安を抱え、こころのケアを必要とされる方が多くいらっしゃいました。

日本赤十字社の救援物資



日本赤十字社が被災者に配分するため全国に備蓄している救援物資には、毛布、安眠セット、緊急セットがあります。熊本地震では発災直後に救援物資を積んだトラックが出勤し、避難所での配布を行いました。

【安眠セットに含まれるもの】

- キャンピングマット
- 枕
- アイマスク
- 耳栓
- スリッパ
- 靴下など

【緊急セットに含まれるもの】

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 風呂敷
- タオル
- 軍手
- ケアセット
- ブックレット(災害時に気をつけたい症状)など





207班 約1,600人

派遣救護班数と人数



654セット

緊急セット配布数



約5,000人

診療傷病者数



22,480枚

毛布配布数



約300人

医師・看護師ら支援要員派遣数



11,230枚

ブルーシート配布数



149人

こころのケアチーム派遣人数



7,551セット

安眠セット配布数

救護班派遣数 (6月2日終了)

救護班(6人)基本編成

医師(班長)	1人
看護師長	1人
看護師	2人
主事	2人

第4ブロック支部

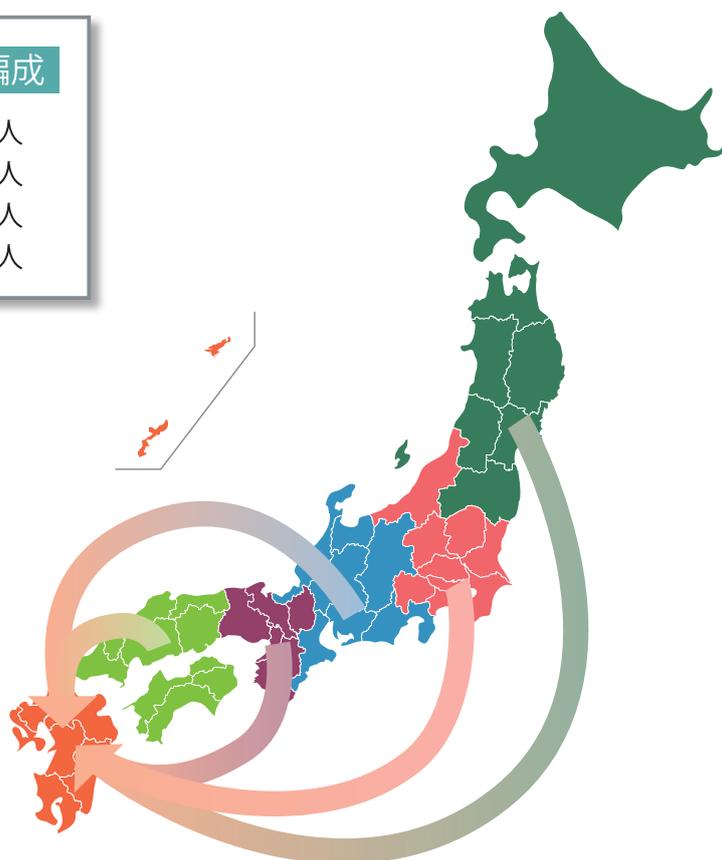
dERU	2班
救護班	39班

第5ブロック支部

救護班	44班
-----	-----

第6ブロック支部

救護班	70班
-----	-----



第1ブロック支部

救護班	15班
-----	-----

第2ブロック支部
(本社含む)

dERU	1班
救護班	23班

第3ブロック支部

救護班	16班
-----	-----



日本赤十字社の使命は、“苦しんでいる人を助けたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守ること”です。皆さまのご支援に支えられて、この思いを胸に活動を続けています。



医療救護活動・こころのケア

日赤は日頃から全国に約500班の救護班を準備しており、熊本には207の救護班（救護班の基本編成はP.3にてご案内）が駆け付け、巡回診療やdERU（仮設診療所）などで、医療支援や救護活動にあたりました。診療した傷病者は約5000人に達しましたが、その後、避難者の減少、地元医療機関の再開などにより、日赤の救護班による活動は6月2日をもって終了、地元医療機関へ引き継ぎを行いました。被災地域でリラクゼーションや心身のケアを行っていたところのケア班は、保健所との調整のもと、6月13日に活動を終了し、地元保健師や医療機関などに引き継ぎました。

ボランティアによる支援

4月17日に青年赤十字奉仕団員が中心となって熊本県支部災害ボランティアセンターを立ち上げ、のべ261人が活動。救護班のナビゲーション、救援物資の積み込みおよび搬送、救護班の記録補佐、避難所でのニーズ調査などを行いました。赤十字奉仕団員を中心とするボランティアスタッフは全国各地で義援金の受付事務などの活動を展開し、1328人が支援業務に参加しました。



避難された方々への健康支援

避難生活を続けている高齢者や障がい者、乳幼児を抱える母親らを対象とした健康支援事業を7月末まで実施。

看護師が避難所を巡回して、身体機能が低下しがちな高齢者や障がい者のケアを行ったり、中断されていた乳幼児健診の再開を支援したり、乳幼児を抱える母親のこころのケアにも取り組むなどの活動を行ないました。

また、介護赤十字奉仕団、接骨・整骨赤十字奉仕団の皆さんも全国から参加し、被災者を支えました。



避難所の環境改善

夏場対策としてミスト機能付き大型送風機、冷却効果があるアイマスクの配布、熱中症予防のための飴や、虫よけスプレーなどを届けています。

長引く避難生活の中で、心身の健康を守る支援、辛い避難所での毎日少しでも快適にするサポートを、世界中の人々の善意がこめられた「海外救援金」によって行なっています。



被災地の方の声



坂井謙二(64)・寛美(67)さんご夫妻
(5月18日 ご自宅・益城町)

避難所で毛布や医療関係の支援をしていただいて助かりました。(寛美さん) / 自分はすぐ風邪ひくんですが、咳が出ると、周囲に迷惑をかけるじゃないですか。日赤さんに薬をもらえてほっとしました。(謙二さん)



坂本智美さん・夢佳ちゃん(1歳)親子
(6月9日 乳幼児健診・西原村)

1回目の地震の時からミルクを飲まなくなりました。朝まで寝る子だったのが夜泣きをするようになり、避難所では周りの方に気をつかうので、とても困りました。そんな時に、日赤の専門スタッフの方に相談できて助かりました。



里山正秋さん(71) (左)・古閑昌子さん(68) (右)
(4月16日 避難所・御船町スポーツセンター)

通っている病院が被災して、いつも飲んでいる薬がなく、不安になりましたが、赤十字のマーク、救護服を見て安心しました。(古閑さん) / 全国他県から赤十字の皆さんが来てくれる。感謝でいっぱいです。(里山さん)



小森節子さん(68)
(5月2日 避難所・御船町スポーツセンター)

犬がいるので、日中は避難所で過ごし、夜は車で寝泊まりしています。先日、避難所内に赤十字の人が更衣室ボックスを設置してくれました。特に女性には嬉しいですね。

皆さまのご支援に感謝申し上げます

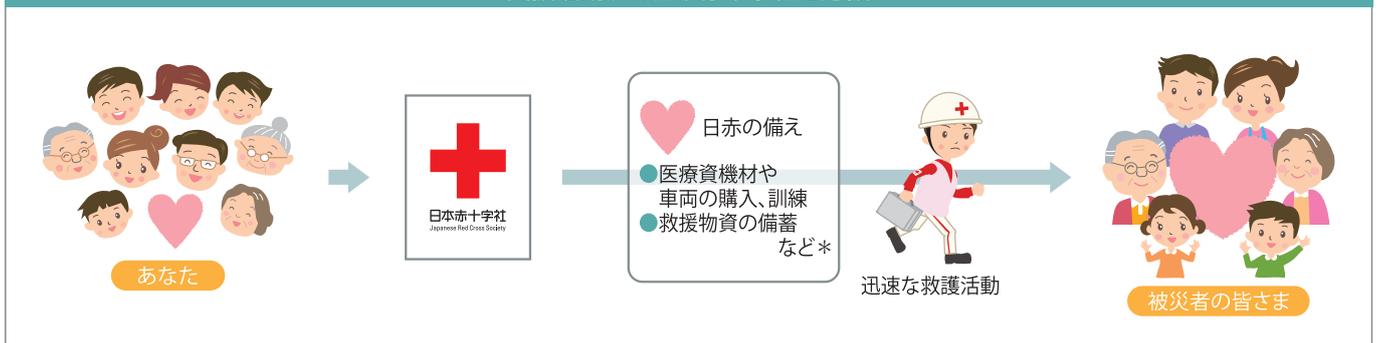
日本赤十字社は熊本地震発生直後から救護員を派遣し医療救護活動やこころのケアなど、被災者に寄り添う活動を行っています。被災地で直接いただく「ありがとう」の言葉は、日赤の活動を支援くださる皆さまへの言葉です。今後も活動を通じて、皆さまの温かいお気持ちを被災地に届けてまいります。

被災者に届ける2つの支援 あなたの気持ちが、誰かを支える大きな支援につながります。

活動資金

日赤の活動を通じて被災者を支えます。熊本地震では、医療救護活動・こころのケア・救援物資配布などを実施。

支援活動する日本赤十字社を応援



* そのほか、炊き出しなどボランティア活動の支援、青少年への防災教育、救急法や幼児安全法の講習、途上国への開発支援などに使用されます

義援金

全額を被災された皆さまにお届けします。

被災者への直接的な支援



「平成28年熊本地震災害義援金」

受付状況 283億4,028万8,816円(427,627件)
(平成29年6月1日現在 集計確認分)

送金状況 282億368万3,898円
(平成29年6月1日現在)
(熊本県 280億3,331万7,355円 大分県 1億7,036万6,543円)

お寄せいただいた義援金は、被害状況に応じて按分され、
熊本県、大分県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆様にお届けします

活動資金 義援金へのご協力方法

活動資金 | インターネット、口座振替、お近くの赤十字窓口など
義援金 | 各種銀行口座、お近くの赤十字窓口など

日本赤十字社 寄付
電話 03-3437-7081 パートナーシップ推進部

検索